



絆 きずな

平成26年5月
第41号
荒川区立南千住第二中学校
校長 齊藤 進

ナンちゃん・ニーくん



「忙しい」ことに思う

校長 齊藤 進

かなり昔の話です。5月のゴールデンウィークに家族で千葉県のマザ-牧場に行ったときのことで。それまで雨の日が続いていましたが、ようやく天気が回復してきました。そのため、その日は多くの子供連れで賑わっていました。ひとときを過ごし、閉門の時刻が迫ってきましたが、空腹を覚えたので軽食を摂ることにしました。視界の隅にラ-メンの赤い幟(のぼり)が目に入りました。どの店も長蛇の列をつくっていましたが、その店も例外ではありませんでした。食券を手に4歳の長男を諭(さと)しながら辛抱強く待ちました。閉鎖されていたカウンタ-の1つが、受付を始めたのでそちらに回りました。店員が4人いましたが、多忙を極め疲労困憊している様子でした。

「ラ-メン1つお願いします」「こちらで注文はできますか」。どちらも反応はありませんでした。「すみません、ラ-メン1つお願いしたいのですが」。反応が無いというより、無視に近いものでした。カウンタ-に注文品が置かれるまで店員が視線を向けるどころか、言葉による応答は何一つありませんでした。息子とすすり合った1杯のラ-メンの味が心なしか塩辛かったことを覚えています。

当時、カナダ人のALT(英語補助指導員)と研究授業をした時のことです。彼女は在日期间が2年程で、教壇に立つ前は、ファッションモデルなど様々な仕事をしていました。異国の地で一人で生計を立てるのは大変な苦労をとまないます。そのため、日頃から、日本の文化や習慣、言葉などの習得にとても熱心でした。

その日、研究授業を終え、反省会を催したときのことで。その席で彼女は、英語とカタコトの日本語を交えながら、「日本語には意味のある言葉があるので、とても考えさせられます。例えば、<忙しい>という漢字は、<心>ころ、を<亡>なくすと書きます。人間、忙しいとついイライラしたりしますが、私はたとえ忙しくても、相手に誠意をもって対応するよう心掛けています。」



日本人はいつから忙しくなったのでしょうか。駅で立ち食いそばを食べなければならないほど忙しいそうだ、と外国人は言います。また、最近の携帯電話をみてもしかり。満員電車や運転中の車のなか、そして歩きながら電話やメールをしなければならないほど忙しいらしい。

学校でも様々な教育施策により仕事量が増え、教師は多忙を極めています。一方、生徒も部活や習い事など一日中忙しい。親も仕事で忙しく、家庭でじっくり子供と語り合う時間をつくるのが難しいようです。日本中どこでも忙しく、どうも日本人は心をどこかに置き忘れてしまったような気がします。街中や駅などで大人同士の口論やトラブルを見かけることがあります。そのあたりと関係があるのかも知れません。

カナダ人の言った<心>を<亡>くさないように、とのひと言が心に残っています。

第1回 地域清掃

毎年恒例になった地域清掃の今年度第1回

が5月10日(土)の授業公開日午後に行われました。

給食終了後、着替えをして全校生徒が校庭に集合しました。今回も、JRC委員会が中心となって準備をし、出発式では委員長が趣旨説明をしました。単に地域をきれいにするだけではなく、**JRC精神**にのっとり、地域に感謝し、地域に貢献しようと訴えました。

出発式の後、持参したビニール袋と軍手、JRC委員から手渡された鉄バサミを手に意気揚々と出かけました。3年生は南千住6丁目、2年生が5丁目、そして1年生は7丁目を担当しました。

2,3年生は慣れた手つきで道端や植え込みの中に落ちているゴミやタバコの吸い殻を拾いました。初めての1年生も楽しみながら元気にゴミ拾いに励みました。また、今回は保護者の参加者もずいぶん増えました。ご協力ありがとうございました。

きれいに見える南千住の街も、全校で集めたゴミの量は、今回も大きなゴミ袋に10袋近くになりました。暑い中での地域清掃でしたが、終わった後は清々しさを感じることができました。



↑↑↑ゴミの分別もなれたもの(3年生)
↑中↓楽しそうにゴミ拾い(1年生)
△下↓道具の貸し出し(JRC委員)

2年生

区オーケストラ鑑賞教室

連休明け5月7日(水)午後、荒川区立中学校オーケストラ鑑賞教室が行われました。本格的なオー

ケストラの演奏を生で聴くことができる貴重な機会、今年で45回を数えます。南千住二中は、毎年2年生が参加しています。

この日は“東京都交響楽団(指揮;村松秀明)”が上野の東京文化会館大ホールで演奏してくださいました。2年生は少し早めの給食をとり、学校を出発。会場に入ると楽団員の方がチューニングを始めていました。ビゼーの「カルメン」から演奏が始まると、その迫力に圧倒され、美しい音色に引き込まれました。オーケストラを構成する楽器の紹介に続き、「剣の舞」、タイプライターを使った「プリンク・プランク・プランク」、「ハンガリー舞曲」、そしてドヴォルザークの「新世界より(第四楽章)」と続きました。どれも一度は耳にしたことがある曲で、あっという間に時間が過ぎました。アンコール曲はこれまたよく知っている「ラデツキー行進曲」でした。

あまりの心地よさにウトウトしてしまった生徒もあったようですが、総じて鑑賞態度も立派でした。音楽の素晴らしさとプロのすごさを感じることができました。

全校生徒がアリーナ(体育館)に集う

前期 生徒総会



5月9日(金)は、生徒総会が行われました。生徒総会は生徒会の最高議決機関で南千住二中学生総会は毎年、前期、後期の2回行われています。今回は前期生徒総会で、生徒会本部が中心となり準備を進めてきました。

26年度の専門委員会が発足すると、各委員会で活動方針や具体的な活動計画の案が話し合われました。その案を中央委員会が議案書としてまとめ、各クラスでの討議を経て、生徒総会への意見が出されました。



誠意をもって質問に答える委員長

総会ではその意見を各クラスの代表が発表し、生徒会本部や各委員会の考えを委員長が答弁するスタイルで進められました。初めは生徒会本部への質問でした。今期の生徒会本部が何を目標にし、全校生徒に何を訴えているかがよく分かりました。もちろん全会一致で活動方針は承認されました。



その後は各専門委員会の活動方針に対する賛成意見、質問、修正案など、活発に意見が出されましたが、各委員会の委員長が委員会の考えと方針を説明し、全校生徒が納得した上で、これも全会一致で承認されました。

総会の最後には、各学年、各クラスの目標が発表され、立派な生徒総会が幕を閉じました。

吹奏楽部

川の手まつり パレード

吹奏楽部は、4月29日(火・昭和の日)に行われた「川の手荒川まつり」のパレードに参加しました。川の手荒川まつりは、荒川区の街を活性化させるために毎年行われているもので、当日はさまざまなイベントが行われます。その中の1つがパレードで、今年は南千住駅から汐入公園までの行程でした。吹奏楽部は、パレード用の楽器を背負い、「荒川そして未来へ」や「聖者の行進」等を演奏し、パレード参加者や沿道の方を元気づけました。



南千住二中の部活動が、地域の活性化にも貢献しました。

新たな英会話講師(NEA)の先生がおみえになりました

Jennifer Cabotse (ジェニファー カボツ)先生

5月から英語の授業でご指導いただいています。よろしくお願いします。

部活動の活躍

春季大会等の成果が続々と得られています。

- 《バレーボール部》 【男子】荒川区春季大会 **優勝** 第5ブロック大会 **準優勝** **都大会出場決定**
【女子】荒川区春季大会 **準優勝** 第5ブロック大会 **第6位**
- 《バスケットボール部》 【男子】第5ブロック春季大会 **ベスト8**
【女子】第5ブロック春季大会 **ベスト16**
- 《ソフトテニス部》 【女子】荒川区春季大会個人戦 1ペア **ベスト8**
2ペア **ベスト12**
荒川区春季大会団体戦 **準優勝** 第5ブロック大会出場
【男子】荒川区春季大会団体戦 **第3位** 第5ブロック大会出場
- 《吹奏楽部》 川の手荒川まつり **パレード**(南千住駅~汐入公園) **参加**

南千住マイスターのコーナー

玄白は晩年、回想録「蘭学事始」を著し、当時は長寿の85歳の人生を全うしました。

南千住の回向院には「観臟記念碑」という石碑があります。この石碑は江戸時代、オランダの医学書「ターヘルアナム」を翻訳し、あの有名な「解体新書」を発行するために行われた「腑分け(人体解剖)」が行われたことを記念してつくられたものです。この解体新書を発行したのが杉田玄白です。玄白は江戸牛込で享保18年(1733年)9月13日に生まれました。家は若狭国(わかさのくに)小浜藩(現在の福井県)の医師でそのための青年期には医学修行を始めます。その後小浜藩の藩医となり、父が亡くなると家督と侍医の職を継ぎました。



小塚原回向院 観臟記念碑

南千住と歴史上の人物 その2 解体新書(1) 杉田玄白

【お詫びと訂正】前号で松尾芭蕉を紹介しましたが、その中で芭蕉の人生を60年と記述しておりましたが、50年の誤りでした。お詫びして訂正いたします。申し訳ありませんでした。